

平成24年度瑞陵会総会・交流会

24年度総会・交流会は2012年8月26日(日)12時30分から約230名の参加者を得てメルパルクNAGOYAで開催されました。還暦学年が開催当番になっての2年目。今年は22回生が中心になって準備・運営がなされ、司会は総会・交流会ともに神谷彰彦さん(22回)が務めました。

第1部は江副嘉彦副会長(16回)が開会を告げた後中村利雄会長(17回)が挨拶をされ、長期間会長を務められた高木前会長への感謝、「人の輪のつながり」の重要性、母校の発展への思い、そのための期別幹事と賛助会費への協力要請を述べられました。この後、総会議事、記念講演(要旨は次頁に掲載)と続きました。

第2部の交流会は一ノ瀬喜之副会長(18回)の開会挨拶に続き、来賓の吉沢雅之校長が生徒の活躍ぶりと同窓生の様々な援助への感謝を述べられました。その後は高木修前会長が来賓として挨拶をされ、関東瑞陵会会長の広田健一さん(16回)による乾杯の発声で楽しい時間が始まりまし



た。アトラクションには声楽家後藤いく子さんの「あったかコンサート」(お住まいが瑞陵校正門前、そんなご縁があったかというオチ)、そして恒例の抽籤会。今年は景品が増えて大盛況でした。青木偉晃副会長(17回)の締め言葉と校歌の大合唱でお開きとなりましたが、新役員と還暦学年の運営の温かさが心にしみる会となりました。改めて22回生の皆さんのご尽力に感謝します。

平成25年度 瑞陵会 総会・記念講演・交流会のお知らせ

日時 2013年(平成25年)8月25日(日) 12:30~16:30

場所 メルパルク名古屋

名古屋市東区葵3-16-16 (JR千種駅徒歩5分、地下鉄千種駅1番出口すぐ前)
電話 052-937-3665

会費 5,000円 当日会場でお支払いください(平成22年以降の卒業生無料)

日程 12:00 受付開始

12:30 瑞陵会総会(1F 輝の間) …終了後講演会準備

13:30 記念講演(1F 輝の間)

講師 深草 アキ(瑞20回 秦琴奏者)

演題 「秦琴と私」

…終了後2Fに移動(受付も移動)

14:30 交流会(2F瑞雲西の間 ビュッフェ式)

講演会

演題 「日本の重要課題～経営者の視点で～」

講師 松下 雋(瑞17回)

日本ガイシ(株) 代表取締役会長(当時)

講演要旨

1 世界経済に関して



・米国の世界的関与の後退とイスラム台頭
簡単には言えないが、米国に凋落傾向が見られる。輸出は対米が35%だったものが15%を切ったが、イラク、アフガン戦争での大赤字にも一つの要因であると思われる。一方、中国はGDPで日本を抜いて第2位となった。GDPという指標であれば、10年以内に世界第1位になるであろう。中国はインドシナ半島南下を目指し、高速道や鉄道を通そうとしており、南沙は全部中国領だという主張。米国はこの状況を看過できないため、アジア重視にシフトしていると思われるが、日本の政権が対応しきれていない。米国のオバマはChangeと言って大統領になったが、これまでのところ大きな変化はないように見られる。風力・太陽光産業を育て雇用を増やすといったグリーンニューディールも消えてしまった。しかし、オバマ政権にとって幸運だったのは、シェールガスを取り出

講演会 2012/8/26(日)

- 1) 世界経済に関して
 - ・米国の世界的関与の後退とイスラム台頭
 - ・欧州債務危機の長期化
 - ・所得格差、地域間格差の是正
- 2) 日本の最重要課題
 - ・震災復興
 - ・エネルギー戦略
 - ・少子高齢化対策
 - ・財政再建(道州制を視野に)
- 3) 経営者の目線で
 - ・日本ガイシの海外戦略と課題

す新しい技術を米国が確立し、これによってLNG価格の大幅下落が実現しつつあることである。米国が再び産業的に活性化するとしたら、このシェールガスが鍵を握ることになるであろう。

・イスラム圏

イスラム圏では、2010年のジャスミン革命から民主化が一気に進み、チュニジア、エジプト、リビアで政権が倒された。シリアでも混乱が続いているが、核心はイスラム諸国とイスラエルとの関わりである。万が一イスラエルとイランが戦火を交えるようなことがあると、11月の大統領選を前にした米国は参戦を余儀なくされるかもしれない、途方もなく大きなリスクになる。そうなった場合、石油やガス

を中東に依存している日本は、イランの機雷により生命線を絶たれるようなことも考えられる。

・CO₂問題

一つ納得できないのはCO₂削減問題である。排出権取引はCO₂削減に名を借りた先進国から後進国への援助だが、先進国である米国は京都議定書に入っておらず、中国は後進国という扱いである。原発が止まった日本はCO₂排出を続けており、大きな負担は避けられない。

2 日本の課題

・震災復興

福島・宮城・岩手の3県は林業、漁業の中心地。3県共同で多数の漁協をまとめることを期待したが外れた。復興庁の縦割り行政の是正、3県の協力体制が課題。

・エネルギー問題

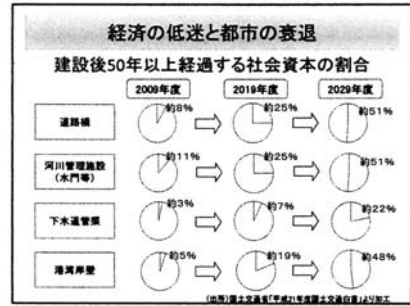
「原発を2030年にどうするか」政府が3択で調査した。反対が7割。乳飲み子を抱えた母親の意見などは切実。2030年までにはまだ20年近くあるが、原発ゼロの場合の電気代や原発を安全に動かすためのコストなど、しっかりシミュレーションした上で十分に議論する必要があるように思える。国会事故調と内閣府調査は全く異なるため、マスコミ報道のみを鵜呑みにして安易に選択しないことが肝要であると考えられる。

・少子高齢化対策

高齢化も日本にとっては避けられない課題である。高齢化社会の中で産業と社会制度をどのように守るかが焦点であろう。70歳まで雇用を続けた場合、若い人の雇用はどうなるのか、またヨーロッパ並みに産後の女性が働けるような環境を作るためにはなにが必要かなど、考えることはたくさんある。

・財政再建

2029年には建設後50年以上経過した社会資本が全体の50%近くになる。膨大な社会資本コストが要る。今のよう



な中央集権制ではやっていけない。中央から地方へ権限・金・人を移していき、二重行政を廃除しないことにはこの国はもたない。

3 経営者の目線で

・日本ガイシの海外戦略と課題

先ずは人件費と生産性の話になるが、当社はベルギーの工場を閉鎖するのに非常に大きなコストがかかった。フランスも同様だが、社会主義的な面もあり、解雇にペナルティが課せられる。インドネシアと中国は賃上げ率が凄まじく、インドネシアについては生産性も決して高いわけではない。反面、米国での労務費は10年ほど変化していない。エネルギーコストに関して言うと、再生エネルギーの関係での本の電気料金は上がると見ているが、米国はフラット。当社が工場進出しているインドネシアは天然ガスが出るので電気料金は低く抑えられているが、メキシコは石油が出るのに電気料金は安いとは言えない。ガス価格については日本が最も高く、中国も日本の半分ほどであるがまだ高い。米国はシェールガス革命で2010年あたりから下がってきている。人件費・生産性・ユーティリティコストを総合すると、2020年頃にはなんと米国が低コスト国になる。工場を作り始めて実際に生産を開始するまでにはそれなりの時間がかかるため、海外進出は足元の情勢だけでは判断できない難しさがある。



会 長 挨拶

瑞陵会会長 中村利雄
(瑞17回)

昨年瑞陵会の会長に就任し、一年が経過しました。この間同窓会活動に多くの進展があったと思います。

まず第一に同窓会活動の基礎となる財政基盤の確立を図るため、賛助会費制度を導入しましたが、これまでに約600人のご賛同を得ました。感謝に堪えません。在校生の支援等母校の発展を図る活動や、より多くの同窓生各位の参加を促し、ネットワークの拡大を図る活動に有効活用して行きたいと存じます。

昨年10月には五中の大先輩杉原千畝氏の功績を讃えて、イスラエル大使館からオリーブの木が寄贈され、植樹の式典が行われました。私もこの式典に参加しましたが、この様子はNHKの7時のニュースで全国放送され、母校の知名度の向上に大いに寄与しました。改めて豊かな個性と確

たる信念に裏打ちされた、自由闊達な校風の重みを痛感しました。

また、母校の講堂・図書館・給食室として90年の永きにわたり使用されてきた感喜堂について、校長先生とも協議の上、その保存について県教育委員会に要請しました。先日、知事と市長が視察に来られましたが、まずは耐震調査をした上で、その適否を判断されると伺っています。保存の際には同窓会としても何らかの協力が求められる可能性があります。

今年は創設以来106周年に当たります。110周年をどのように祝うかもそろそろ検討しなければなりません。とりあえず100周年の際発行した名簿の改訂に着手することにしました。また、今後こうした活動を税制上支障なく行うためには一般財団法人を設立した方が良いのではないかと意見があり、他校の例を参考に「一般財団法人瑞陵高校、瑞陵会」(仮称)の設立を検討しております。来たる8月の総会でお諮りしたいと考えています。

今後とも同窓生各位の同窓会活動への積極的な参画を期待して止みません。

<p>司法書士グリーンフォーラム</p> <p>司法書士 林 勝 博 (瑞19回)</p> <p>〒458-0036 名古屋市緑区六田一丁目200番地 TEL.052-624-1885 FAX.052-621-1384</p>	<p>株式会社 光商会</p> <p>取締役社長 吉 田 明 弘 (瑞13回)</p> <p>〒456-0052 名古屋市熱田区二番一丁目14-8 TEL.052-682-6211 FAX.052-671-0135 URL http://www.hkr-s.co.jp</p>	<p>佐久間医院</p> <p>院 長 佐久間 修 三 (瑞19回)</p> <p>〒464-0811 名古屋市千種区朝岡町2-1 TEL/FAX.052-781-0430</p>
--	--	---



瑞陵高校生への思い

校長 吉沢 雅之

昨年より今年にかけて一年間を振り返ると、同窓生の現在の生徒に対するさまざまな配慮と温かい眼差しを感じる事が幾度となくありました。昨年10月に本校で行われた日本とイスラエルの国交60周年を記念してのオリーブの植樹式には、中村会長さんを始め大勢の方々にお越しいただき、NHKの全国ニュースにも流れることとなりました。その後さらに常任幹事の近藤様からは、全校生徒・職員ひとりひとりへ「杉原千畝と命のビザ」の書籍をプレゼントしていただきました。また、11月にはやはり同窓生の熊澤様による一般財団法人「瑞陵高校助成基金」の設立があり、本年3月のワシントン・ニューヨークへの第1回海外学習事業を実施することができました。

このようなできごとと並行して、従来より実施されていることですが、天野副会長さんからは陸上競技や将棋等の全国大会出場者への激励を、濱田副会長さんからは全定ともに同窓会入会式で温かいメッセージを送っていただきました。また、進路セミナー等の通年にわたる学校行事では、例年本校出身の大学教授や法曹界の方々に講師として御協力いただいております。さらに今年の第1回濱島奨学事業は、杉原千畝記念館への訪問とイスラエル料理講習会をセットにしたツアーでしたが、濱島先生自身も参加され、生徒達へ親しく声をかけていただきました。

慈雨のように降り注がれる同窓生からの愛情に包まれた瑞陵高校の生徒に対して、私達教員は何を望むべきなのでしょう。私は人が充実した人生を送るために必要なものは、第一は恵まれた環境であると思いますが、第二は自分

自身の内・外に開かれた精神であると考えます。

6月3日、本校を訪れていた教育実習生22名に「人を大切にしてほしい。」という話をしました。どの職業についても最も大切なことですが、特に教育の現場で働くことを目指す皆さんには是非このことを忘れないでいてほしい。人を大切にすることは具体的にどういうことか。それはまず「人の話を聞くこと」。そしてその人の立場になって受けとめること。自分の好き嫌いや価値観で聞きたい話を聞くのではなく、誰であれ相手の言い分をしっかりと受けとめようとする心で聞くこと。授業だけでなく、放課中や何気ない時間の中でも色々な生徒の声に耳を傾けること。先生方の声もできれば本音の部分をしっかりと聞くこと。「人を大切に」するための、もう一つの具体的な方法は本を読むこと。特に自分の教える教科とは違った範疇の本をしっかりと読むこと。本を読むことは、自分が実際に経験したことのない様々な経験をすることであり、自分以外の多くの人々の生き方や世界を学ぶことになる。

こうして人の話を聞き本を読むことへの努力が、開かれた精神をもたらしてくれる。「たてまえ」ではない人の「弱さ」に気づき、その「弱さ」を受けとめることで、確かな他人への配慮ができるようになる。このことが「人を大切に」することの意味であると思う。若い皆さんは、「こうでなければならない」という理想があると思う。けれどもその理想に必ずしも一致しない他人がいて、何より一致しない自分自身がいる。人を大切にすることは、自分を大切にすることでもあり、その時はあるがままの自分を受けとめた上で何をすべきかがわかる時だと思う。

全校集会では今年も5月の修学旅行で感じたことの一部を話させていただきました。「万卷の書を読むに非ざるよりは、安んぞ千秋の人たるを得ん。」松下村塾聯の冒頭の言葉です。日々この一瞬一瞬に万卷の書を読もうとする自分自身との戦いこそが、青春時代と人生を貫いて最も大切にすべき生き方のように思います。

日本・イスラエル国交60周年記念植樹式

4月上旬、同窓会事務局にイスラエル大使館広報部から電話が入った。曰く「杉原千畝の母校である瑞陵高校は、イスラエル大使館が寄贈するオリーブの植樹を受ける意思はありや」と。早速校長と相談し学校行事として積極的に受ける意思有りと返答。

以後は教頭と総務を窓口として調整を図り、以下のような行事を行った。

- 1 公使スピーチとオリーブの植樹
 - 平成24年10月16日(火)15:30~
 - ① 公使スピーチ【瑞光館】(全校生徒参加)
 - 両国の国歌演奏(吹奏楽部)
 - 公使スピーチ
 - 同窓会長挨拶
 - 生徒代表謝辞(国際交流部 谷田部怜志)
 - ② オリーブ植樹式【80周年記念庭園】
 - オリーブ植樹(生徒会役員とクラス代表参加)
 - 銘標序幕
 - 校長謝辞

2 『杉原千畝と命のビザ』(サンライズ出版)寄贈式

この後、杉原氏の偉業を瑞陵生に理解してもらおうと適切な資料を配付したいとの申し出があった。22回生近藤哲典氏・神谷彰彦氏が中心となって有志を募り、『杉原千畝と命のビザ』(サンライズ出版)が全校生徒に寄贈されることとなった。12月4日考査終了後の11時から、以下の内容で寄贈式が行われた。

- 寄贈者代表挨拶 近藤哲典氏
- 著者講話 寿福 滋氏
- 校長謝辞

3 この後の生徒の動向

植樹式後、瑞窓編集委員や家庭クラブ等の生徒代表は公使と面談した。茶道部生徒がお茶を点て、和やかな雰囲気



中日新聞平成24年10月17日(水)朝刊 (掲載許可済)

<p>エール国際特許事務所</p> <p>弁理士 間瀬 銈一郎 代表パートナー</p> <p>(瑞11回)</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-7 丸の内OSビル4F TEL.052-959-4520 FAX.052-959-4522</p>	<p>名古屋フランスcorp株式会社</p> <p>代表取締役 服部 幸三 会長</p> <p>(瑞14回)</p> <p>〒470-0112 愛知県日進市藤枝町西外面16番地 TEL.0561-73-4601 FAX.0561-75-4545 URL http://www.nagoyafrance.co.jp</p>	<p>栗田敬八税理士事務所</p> <p>所長 栗田 敬八</p> <p>(瑞19回)</p> <p>〒454-0911 名古屋市中川区高畑2-14 シェルコート高畑401 TEL.052-351-0251 FAX.052-352-8268</p>
---	---	---

であったと聞く。「瑞窓」に日本・イスラエル国交60周年特集記事が生まれ、家庭クラブが次年度当番校として発表するテーマを「イスラエル料理の普及と国際交流」と決定したのは当然の成り行きであった。生徒の中にも瑞陵を見直そ

うという動向が生まれたようで、百周年記念誌を希望する卒業生も例年になく多かった。また、新年度4月には、生徒の中から22回生濱島氏提供の奨学事業を活用した杉原千畝記念館への研修旅行が計画され、6月に実行された。

公使スピーチ

榮光に満ちた過去と長い伝統、そして約束された未来を持つ二つの国、日本とイスラエルの友好関係60周年を記念するにあたり、イスラエルとユダヤ民族を代表し、諸国民の中の正義の人、杉原千畝氏の母校を訪れることは、私の義務であり、権利であると感じています。

ユダヤの伝統では、一人の人間を救う者は、世界を救うのだと言われています。杉原氏の勇敢な行動は、何千もの世界を救ったのです。

ナチス・ドイツによる残虐行為および、その犯罪に対するヨーロッパの人々の支持の大きさを考えると、ホロコーストの時代にユダヤ人を救い、助けた少数の人々の勇敢さ・勇気が際立ちます。このような行為は、人間精神の勝利を象徴する例です。

戦時下の闇と悪のヨーロッパにも、時折りわずかな光の

筋が存在しました。杉原氏が自身とその家族を危険にさらしてまで、援助を行うこととしたその決断は、決して簡単なものではなかったはずです。

イスラエル国は、ユダヤ人を助けた人々の行動と献身を顕彰し、「諸国民の中の正義の人」(ヤド・バシム)という最高榮譽賞を与えました。

貴校の卒業生の行動は、ユダヤ人の救済というコンテキスト(文脈)でのみ理解されるのではなく、人間性や基本的な道徳そして他者への愛の、服従に対する勝利として、また慣例に従うのではなく、自分が正しいと思う事を行うのも必要だという意味で捉えるべきです。

杉原氏はその意味で、私たちすべてが、行動のすべてにおいて、手本とすべきなのです。

本日私たちが植えるオリーブの木は、平和と、希望、そして生徒の皆さんの手中にある、輝かしい未来の象徴です。

イスラエル公使 ベレグ・レヴィ

瑞陵のオリーブの樹

—イスラエル大使館による植樹の経緯—

法務博士 三品耕作 (瑞47回)

1、はじめに

イスラエル大使館(以下「大使館」という)から瑞陵高校に対し正式にイスラエル大使の瑞陵高校への訪問を打診する電話が入ったのは2012年4月4日であった。この日以前において大使館と訪問について交渉をした瑞陵側の唯一の者として、私はその経緯を明らかにしておきたい。

2、きっかけは大矢洋服店

あることを契機に大矢洋服店(五中跡地である市立瑞穂が丘中学校の正門近く)の旦那さんとお話する機会があった。大矢洋服店は瑞陵高校の学生服等を取り扱っていることに誇りをもっていらっしゃるようだった。昭和一桁生まれの旦那さんは、大正天皇が皇太子時代の1910年に五中を訪問したときの出来事を親の代から伝え聞いており、瑞陵にとって貴重な記憶をお持ちであるように感じた。お話を聞く中で、『瑞陵80周年記念誌』は瑞陵の教員が大矢洋服店へ持参し贈呈したが、『瑞陵100周年記念誌』(以下「記念誌」という)は贈呈していないことが分かった。後日、瑞陵会事務局(当時)の鈴木英利先生(瑞27回)から了解が出たので、私が大矢洋服店へ記念誌を持参し贈呈した。2010年の秋であった。

3、記念誌の追加送付

記念誌の送付漏れがあるのでないかと疑問に思い、本山の国立大学図書館で蔵書検索をしたところ、記念誌はやはりヒットしなかった。当図書館にある、各高校の記念誌が置いてある本棚を確認したが、瑞陵関係の本は、『60周年記念誌』と『80周年記念誌』、『瑞窓』の創刊号の三冊があるだけで、やはり記念誌はなかった。当図書館員も是非欲し

いとのことだった。鈴木先生から了解が出たので、私はこの大学図書館へ記念誌を持参し贈呈した。

記念誌の送付担当者に尋ねたところ、記念誌を全国の大学図書館へ送付しなかったことが分かった。鈴木先生へ記念誌の追加送付を持ちかけると、予算の関係があるので、私が瑞陵会役員会へ出席し賛同を得てほしいとのことであった。2011年5月の役員会に私は出席し議論になったが高木修瑞陵会会長(当時)の取りまとめもあり最終的に賛同を得ることが出来た。ただ、役員会の直後、会議室外の廊下で高校首脳(当時)から呼び止められ「送付を受けた側にとって記念誌はゴミになってしまうのではないかと私はご指摘を受けた。しかし、(瑞陵の校風である)自由・自主・自律の精神でアドバイスはありがたく黙殺することにした。私にはある意図があったからである。

4、イスラエル大使館へ送付

主に全国の大学図書館への記念誌送付として瑞陵会から予算をつけて頂いたが、私は瑞陵にとって効果的な送付をしたいと考えた。五中瑞陵には著名な卒業生が少なくない。大学図書館だけでなく、著名卒業生を記念した諸施設・機関へも送付をする意図が私にはあったのである。記念館にとっては記念対象者の資料は貴重である。記念誌も貴重な資料になるかもしれない。また、運がよければ記念館で記念誌を展示して頂けるかもしれない。そうすれば、瑞陵高校の名を広めることになるかもしれない、と考えたのである。幸い、私の意図することは、鈴木先生にも理解して頂いた。大使館を含めた杉原千畝に関連する複数の施設・機関へも送付することになった。著名卒業生で記念誌に特集が組まれていた江戸川乱歩や都留重人、谷川徹三も然りであった。2011年8月に瑞陵会館において送付の準備をし、同年9月に約150箇所へ送付した。鈴木先生の外に、生徒会室の後輩にあたる三浦拓也さん(瑞61回)が手伝ってくれたためスムーズ

<p style="text-align: center;">滝山獣医科病院</p> <p style="text-align: center;">獣医学博士 滝山 昭</p> <p style="text-align: center;">(瑞16回)</p> <p>〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田220 TEL.052-621-0179 FAX.052-621-2020</p>	<p style="text-align: center;">近藤産興株式会社</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 近藤 昌三</p> <p style="text-align: center;">(瑞10回)</p> <p>〒457-0822 名古屋市南区浜田町1-10 TEL.052-614-2511 FAX.052-611-5826</p>	<p style="text-align: center;">株式会社 新栄商会</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 会 長 時津 忠</p> <p style="text-align: center;">(瑞15回)</p> <p>〒468-0056 名古屋市白区島田2-516 TEL.052-801-1222(代) FAX.052-803-1321</p>
---	---	--

に準備ができた。念のために、宛名用のラベルには内容物は「瑞陵高校100周年記念誌」と大きな字で表示し、約150個のレターパックのバーコード番号を全て控えておいた。

5、イスラエル大使館とのコンタクト

セキュリティが高いためか、大使館から、送付した内容物の証明があった上で受領したいと瑞陵会へメールがあった。それは、送付をした直後のことであった。瑞陵会のメール事務担当者から、私宛に次のようなメールがあった。それには、送付担当者である私の方で大使館へ直接に内容物を証明してほしい旨が書かれており、大使館からのメールが添付してあった。上記のようにバーコード番号は控えてあったので、内容物の証明は簡単であった。大使館にも受領して頂くことができた。本来ならば、大使館とのコンタクトはこれだけで終わったであろう。しかし、瑞陵高校と瑞陵会がこれまで行ってきた杉原千畝に関連する取り組みをお伝えすればイスラエルの人々に喜んで頂けるのではないかと思います、私はメールでその取り組みを紹介したのである。ちょうどその年から電子化された瑞陵会報に「杉原千畝関連の取り組み」という記事があったので、そのURLアドレスをメールに貼り付けるのは簡単であった。

大使館と私がメールでやり取りするうちに、2011年11月頃、大使訪問のお話を頂いた。交渉の具体的内容は相手がいらっしゃることなので明らかにできないが、大使館は瑞陵高校と瑞陵会に対して極めて好意的であった。私の感触では、大使館は瑞陵高校と瑞陵会が10年以上も杉原千畝に関連する取り組みをしてきたことに対して高く評価してい

るようであった。高評価は、当初の打診が大使の訪問であったことから感じとれると思う。

6、全国ニュースに

「ローカルニュースは確実。でも全国ニュースにはならないなあ」と語ったのは大学時代の友人で東京本社勤務のNHK記者である。この友人からは、マスコミ対策について細やかなアドバイスを受けた。また、2012年8月に催された瑞陵の同期会で、NHKエデュケーショナルのディレクターの近藤浩正さん（瑞47回）と、CBC（中部日本放送）報道部の中村進一郎さん（瑞47回）からマスコミ対策についてアドバイスを受けた。近藤さんと私は瑞陵高校では生徒会執行部と部活が一緒であった。

彼らのアドバイスに従ってマスコミへ情報提供をした。その3日後の2012年10月5日には中日新聞夕刊に社会面のトップ記事として植樹式の予告が大きく載った。また、植樹式が挙行された10月16日は大事件が無く運が良かったのかもしれない。午後7時の「NHKニュース7」で全国ニュースとして扱われた。CBCはもちろん、中日新聞と読売新聞も写真付で報じてくれた。

7、おわりに

瑞陵高校に栄えある機会を与えて頂いた大使館に感謝の意を示したい。また、杉原千畝に関連する取り組みを続けてこられた瑞陵高校・瑞陵会役員の皆さんに敬意を表したい。植樹式に際して、お住まいの関東から名古屋へお越し頂いた中村利雄瑞陵会会長にも頭が下がる思いである。母校に植樹されたオリーブの樹の成長が楽しみである。

次は僕たちだ

308R 橋本虎太郎

杉原千畝氏の強い意志と人道的・平和的決断は、最近になってようやく正しく理解され評価されるようになりました。僕たち後輩にとっては喜ばしいことですが、逆に先輩から「強い意志を持って、正しい決断をする」というメッセージを受け継ぐのか否かと、問いかけられているようにも思えます。昨年度瑞窓編集委員長だった僕は、氏の強い意志と重い決断、平和の重要性と国際的交流の広がりやを瑞陵生に知ってもらいたいと思いイスラエル特集を組みました。しかし、まさか自分がイスラエル公使と話をするとはいってもいなかったもので、先生から話があったときには、喜ろこぶどころか、「えっ、本当ですか」と驚きの言葉を出してしまいました。

外国の方との接触が身近なことになり、外国語の重要性が強調されて久しいのですが、今回そのことを改めて実感しました。杉原氏についてや日本とイスラエルについて英語で話すことを想像すると、緊張して汗が止まりませんでした。「こんな僕が生徒代表で話をさせてもらっているの

か」と不安になる自分を、「このような素晴らしい経験ができるチャンスは二度とないぞ」と励まし励まし、当日に臨みました。

服装をただして校長室に入り、公使にお会いすると緊張のあまり頭の中が真っ白になってしまいました。英語は得意な方だと思っていましたが、外国の方と話す機会は多くはないので、もし自分の英語が通用しなかったらどうしようと、怯えてしまったのです。しかし、公使はとても陽気で優しい方でした。温かく包み込むような笑顔に接して「言葉よりハート」と思ったらスムーズに話が出来ました。

この素晴らしい経験は自分の自信となり、国際社会で活躍したいという将来の夢につながったような気がします。僕たちはいつまでも先輩の偉業にすがってばかりもいられません。次は自分が強い意志を持ち、正しい決断をしなければならぬのです。僕たちはその力を持っています。瑞陵の伝統と自由・自主・自律の精神がそれを可能にしていると感じます。

このようなまたとない貴重な経験をさせていただいて公使、先生方に本当に感謝しています。

平成25年度愛知県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 料理も国教を越える—イスラエル料理に親しもう—

愛知県立瑞陵高等学校家庭クラブ

I 題目設定の理由

私たちの大先輩である杉原千畝氏は第二次世界大戦中、

ヨーロッパのリトアニアで外交官を務めていました。ナチスドイツに迫害されるユダヤ人にビザを発行し、約6000人のユダヤ人の命を救いました。現在、イスラエルには多くのユダヤ人が生活しており、平成24年は日本・イスラエル

<p>株式会社エイチ・ケイ・コーポレーション</p> <p>代表取締役社長 加藤 秀雄 (瑞25回)</p> <p>〒352-0006 埼玉県新座市新座1-13-19 TEL.048-485-1483 FAX.048-479-7701 Email katochan@df6.so-net.ne.jp</p>	<p>てらかど動物病院</p> <p>院長 獣医師 寺門 俊博 (瑞45回)</p> <p>〒465-0087 名古屋市長東区名東本通5-19 TEL.052-703-1101 FAX.052-703-1189 URL http://www.terakado-ah.com</p>	<p>太子歯科医院</p> <p>院長 小森 敦夫 (瑞33回)</p> <p>〒458-0823 名古屋市長区太子2-190 TEL.052-623-1184 FAX.052-623-0799 URL http://www.taishi-dental.com/</p>
---	---	---

国交60周年にあたり、イスラエル大使館からレヴィ公使が来校しました。

氏の業績をたたえ顕彰するため、全校生徒に講話をした後、友好の証にオリーブの植樹をしました。



家庭クラブでもこの行事をきっかけにイスラエルについて調べることにしました。調べてみるとベーグル、ピタパン、パストラミサンド、ニューヨークチーズケーキ、ジェリードーナッツなど、ユダヤの食文化が思いのほか身近にあることを知りました。そこからイスラエルの料理に慣れ親しみ、食の面から理解を深めていくことも国際理解につながるのではないかと思います。

そこでイスラエルの料理を紹介し広めることを目標として題目を設定しました。

Ⅱ 研究・実践活動

1 イスラエルについて知る

(1) イスラエルの食習慣

ユダヤ教を信じるイスラエルの人々は、旧約聖書の昔から様々な規制の中で生活してきました。現代の食卓においても Kosher (カシュルート…英語読みはコウシャ) というルールに従っています。どこの国の料理でも手軽に自由に食べられる私たちにはなじみのない習慣で驚きました。



コウシャ認定マーク

(2) ポピュラーな食べ物

イスラエルは移民の国なので、中近東の料理とともに、さまざまな地域の味が家庭の味となっています。一般的にはファラフェル (ヒヨコ豆のコロッケ) やピタパン、サラダをよく食べるそうですが、ニューヨークで生活するユダヤ人も多いため、ベーグルやパストラミサンド、ニューヨークチーズケーキなどのユダヤの食文化は、いつの間にか私たちの身近な食べ物になっていることがわかりました。

2 実践・普及活動

(1)~(3) 省略

(4) 日本・イスラエル国交60周年記念式典

10月16日の記念式典の後で、家庭クラブ役員は生徒会誌を編集している「瑞窓」委員とともにレヴィ公使と対談することができました。

インタビューをもとにイスラエルの食文化について研究しました。

以下はそのまとめです。

①コウシャ

ユダヤ教を信じるイスラエルの人々は、現代の食卓においても Kosher というルールに従っています。

コウシャとは英語読みで、ヘブライ語ではカルシュートといえます。もともとは、紀元前の旧約聖書の教えにそくした「食事規定」のことで、日本では「清浄食品」と訳されています。

コウシャには様々なルールがあります。例えば「豚肉は一切食べない」「ヒレとウロコのある魚はよいが、貝類・甲殻類は食べない」などで、ほかにも厳しい食事規制が存在します。



この規定に従って加工された食品には「コウシャ認定食品」があります。認定を受けた食品・調味料・サプリメントはユダヤ教徒の戒律にふれないだけでなく、添加物等も制限されているため、ユダヤ教以外の人々が口にしても安全な食品とされています。

輸入食品を注意してみると、コウシャのマークがついているものもあり、知らない間に「コウシャ認定食品」に接していることがわかりました。

②ピタパン

ピタパンはポケットパンともいわれ、シンプルな味わいで、中が空洞になっているのが特徴です。その空洞 (ポケット) にフムスというペーストをぬり、ファラフェルやシシカバブ、野菜などはさんで食べるというのが中近東での代表的な食べ方で、現地ではファーストフードとして親しまれています。



イスラエルで人気の主食、ピタパンを日本の家庭でも簡単にできるように、家庭クラブ執行部を中心に試作・改良を重ね、少しの量でビニル袋を使って簡単にできるようにしました。少量なら力も時間もかけずに簡単にできるので、小さな子どもでも楽しく調理できます。

レシピも様々なイベントで自由に持ち帰ってもらえるよう設置しました。

③フムス

フムスはイスラエルで最も人気のある料理の一つで、トルコ、ギリシャ、ヨルダンなど中東の広い地域で食べられている伝統的な料理です。ゆでたヒヨコ豆をすり潰し、レモン汁、オリーブオイル、練りごま等を加えたもので、前菜やディップに用いられます。ピタパンにつけて食べるのが一般的です。豆やごまを原料としているので、たんぱく質や食物繊維、ミネラルも多く含むヘルシーな料理で、ごまを使っているため日本人の口にもよくあいます。

中略

V まとめと今後の課題

杉原千畝先輩とのご縁でイスラエルについて研究することができました。イスラエルの食文化についても文献を調べるだけでなく、イスラエルの方といっしょに料理をすることで異文化コミュニケーションを充実させることができました。「コウシャ」についてもユダヤ教の価値観に基づいて実行されているなどと直接お話を伺うことができ、遠い国の見知らぬ文化をもった人から、今同じ時に生活しているイスラエルの「人」を感じることができました。

今回の研究で、生きる基本である「食べる」ということを通してイスラエル文化にふれ、交流をすることで、遠い国であったイスラエルを身近に感じる事ができました。

また同様に様々な国や地域の料理を研究すれば、「食べる」ことを通して文化交流、国際交流のきっかけをつくる事ができるとわかりました。

そして、外交官であることよりも人間であることを優先させた偉大な先輩が残して下さった財産を大切に、私たちも国境を越えて交流できるような「食の情報発信」をするために、学習を続けていきたいと思えます。

<p>ムツミ工業株式会社</p> <p>代表取締役 近藤 哲典</p> <p>(瑞22回)</p> <p>〒462-0866 名古屋市北区瑞璃光町5-1 TEL.052-913-2111(代) FAX.052-913-2100 URL http://mutsumi-industry.co.jp (連絡先: 総務部・今村氏)</p>	<p>つばめ自動車株式会社</p> <p>代表取締役 天野 清美</p> <p>社 長</p> <p>(瑞17回)</p> <p>〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目21番17号 TEL.052-201-8031(代) FAX.052-201-8036 URL http://www.tsubame-taxi.or.jp</p>	<p>株式会社 アオキスーパー</p> <p>取締役会長 青木 偉晃</p> <p>(瑞17回)</p> <p>〒453-0054 名古屋市中村区鳥居西通一丁目1番地(本社) TEL.052-414-3600 FAX.052-414-3609 URL http://www.aokisuper.co.jp</p>
---	---	--

濱島事業バス研修「偉大なる先輩の軌跡を訪ねて」を企画して

207R 萩野 宏 紀

私は小学校の頃「杉原千畝」の伝記を読んだことがあったので、瑞陵に入学してから杉原氏が自分の先輩であることを知って大変うれしく思いました。昨年イスラエル公使が来校されオリーブの植樹が行われましたが、友人の中で杉原千畝氏を知っている人が少ないことを知り、驚きました。

そこで、少しでも多くの人に杉原氏の偉大さを知って欲しいと思い、友人二人に協力してもらって、杉原千畝記念館を訪問するツアーを企画をしました。当初は記念館を見学し人道の丘を散歩することを考えていましたが、家庭クラブの人が料理面からの国際交流を希望していることを知ったので、イスラエル人の八百津町国際交流員からイスラエル料理を習うことを組み込みました。

実際にツアーを企画すると大変なことがたくさんありました。一番は交流員のメイトルさんとの連絡でした。イスラエルと日本との文化の違いなのでしょうが、やりたいことが正確に伝わらなくて、ツアー催行の前日まで電話やメールを交わしていました。たくさんのお願いをしたのでメイトルさんにも迷惑をかけたと思いますが、深い内容になるよう協力していただき感謝しています。また、少しでも杉原氏の生身の人間像を知ってもらいたかったので、バス車内でのクイズを作りましたが、本を読み直したりして大変な時間がかかってしまいました。

資料館でのメイトルさんのホロコーストの説明には迫力が有り、一層杉原氏の偉大さが理解できたように感じました。また、料理をしてイスラエルを身近に感じることで

きた点は良かったのですが、その分記念館を見学する時間が短くなり資料が十分に見られませんでした。アンケートで指摘されたように、この時間配分のまずさは反省すべきだと思います。



初めて参加して、初めて企画した濱島事業。濱島先生がおっしゃった「体験したことは絶対忘れない。」という言葉のとおり、杉原千畝氏は私の中で一層大きな存在となり、これから私が「ものを考える」際の原点に座ったように思えました。ひとつの事を企画して、多くの人とのつながりが生まれ、「企画してくれてありがとう」の感想まで頂いて、こんなに嬉しいことはありません。

このような素晴らしい経験とともに、瑞陵の魅力や伝統を再認識する機会を与えてくださって有り難うございました。

企画：濱島誠一郎瑞陵高校生支援事業
 日時：平成25年6月1日（土）
 日程 8:00 学校発
 → 9:30 杉原千畝記念館・人道の丘（講義あり）
 → 11:30 イスラエル料理講習会（八百津町公民館）
 → 17:00 学校帰着（予定）
 参加者 31名 参加費用 500円（材料代等）

『杉原千畝と命のビザーシベリアを越えてー』の贈呈まで

近藤 哲 典 (瑞22回)

杉原図書贈呈に至った経緯を述べます。一年前、PTA総会及び瑞陵会総会で、日本とイスラエル国交樹立60周年記念の一環として、イスラエル政府より<杉原千畝先輩の偉業に対してオリーブの記念植樹が行われる>という吉報がありました。

同窓会幹事をしている同期に、「記念行事or答礼の企画の有無」を尋ねると、無いとのこと。また、当時瑞陵高校3年生の末娘に、杉原千畝先輩のことをどの程度知っているか尋ねてみると、「名前ぐらい…」でした。これでは、贈られる“オリーブの樹”も何のための記念植樹か？との思いがよぎりました。

こんな二度と無い素晴らしい機会に居合わす生徒・職員全てに、瑞陵高校は杉原千畝先輩を始め多くの偉大な先輩を輩出している伝統校だということを知ってもらいたいと強く感じました。こんな時こそ同窓会として在校生に何もしないでは存在価値がありません。高校時代に母校で学んだことは「自らの信ずるところを行動に移す」ことであり、学生運動盛んだった当時、どの派を良しとする先生方でも一致した教えであったことを思い出します。現在では、同

窓会として何かを企画するには、幹事会や臨時総会などいろいろな手順を経ないとタイムリーな企画はできません。それなら、俺がと思ったのが主たる動機です。同期に相談し、「今は廃版の杉原Book(杉原千畝と命のビザ…)を、2000部増刷りして全員に配布」することを決めました。必ず同じ気持ちの仲間是在ると同期会は元より、多くの同窓生に輪を広げ、学校側、出版社、新聞社、著者と細かな折衝をし、植樹後の昨年中に本の全員配布ができました。多くの方々にご賛同いただき集まった寄付金は全て、以下の用途に支出したいと考えております。ご了解下さい。
 ・記念樹及びその周辺の維持管理～記念樹の意味を忘れないための記念碑建立～継続的に 在校生・職員PTAに杉原千畝先輩の偉業の伝承＝本年は、「杉原千畝物語」5000回公演をライフワークとして一人芝居をしているー俳優：水澤心吾ーの瑞光館で、記念祭と連動して上演企画中～瑞陵会



瑞陵会会長

中 村 利 雄

(瑞17回)

日本商工会議所・東京商工会議所専務理事
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2

原稿募集のご案内

編集委員会では、『五中・瑞陵史発掘』シリーズの原稿を求めています。事件、出来事、卒業生の活躍、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などについて書いていただける方、資料を提供していただける方はふるってご寄稿ください。また、推薦していただける方があれば、その情報も編集委員にお知らせください。

編集責任者：浜島昭二 (瑞19回) shoji.hamajima@gmail.com

の存在感を示す事業。これについては、良案をお持ちの方は是非ご教授下さい。最後に、今回の本贈呈実現に快くご協力賜った瑞陵高校校長：吉沢雅之様、前教頭：日比野様、メールや手紙、電話で励ましてくれた同窓生の皆さん、贈呈式の日に声を掛けてくれた在校生諸君など、本来なら一人ひとりにお礼を申し上げるべきですが、この場を拝借して「皆さん、本当にありがとう」と書かせていただきました。

贈呈式スピーチ原稿より抜粋

・私は40数年前にここ瑞陵高校を卒業し、現在子どもを母校に通わせている親でもある。今回、日本：イスラエル国交樹立60周年記念の一環として、＜杉原千畝先輩の偉業に感謝のオリーブの記念植樹＞がイスラエル政府より行われ

た。外国政府が、いち高校に感謝のオリーブ植樹とは、異例中の異例。我々の先輩の偉業は、植樹式のイスラエル政府スピーチ原稿（高校HP転載）に詳しく転載。この大先輩を後輩である我々が知らずして母校が語れるのか？そんな思いがあった。設立が古ければ伝統校という訳ではない。多くの先輩が社会で活躍し、貢献したかが肝心なこと。イスラエル政府は3.11大地震の折、いち早く医療団を来日させ、現地入りして救助活動医療活動に尽力。撤退時には医療機器を地元の医師に使ってもらえるよう寄附して帰国。これは杉原氏の偉業・功績が忘れることなく感謝されているから。本の巻末にあるDo the right thingこそ、杉原先輩から引き継ぎたいこと。

五中・瑞陵史発掘

旧講堂・感喜堂について

感喜堂のプロフィールと耐震工事に関する最近の動き

- 1 感喜堂のプロフィール
 - 大正13年 愛知県立商業学校の講堂として竣工
外壁は鉄筋コンクリート、屋根は木造という大正期の建築様式
 - 昭和23年 瑞陵高等学校発足、講堂として使用される。
 - 昭和39年 瑞光館竣工に伴い図書館となる。
 - 昭和54年 図書室、本館3階に移動。
これに伴い一部を調理場に改築し、定時制給食室となる。
感喜堂と命名され、現在に至る。

- 2 耐震工事について
 - 平成23年3月の東北大地震の発生により、文部科学省は5月「施設整備基本方針」を改正し、「平成27年度までのできるだけ早い時期に耐震化を完了させる」ことを記載した。
 - すでに、愛知県は平成22年に「第2次地震対策アクションプラン」を修正し同様の目標を設定していたので、これにより県立学校の耐震補強が一層推進されることとなった。
 - 本校の耐震工事の経過は以下の通りである。
 - 平成15～17年度 教室棟耐震工事（三期に分け終了）
 - 平成24年2月 県教育委員会財務施設課来校
名古屋市（歴史的まちづくり推進室）から歴史的建造物への認定について打診があり、県として検討のため来校
学校は認定を受ける意向を伝え、耐震補強を依頼
→検討結果：感喜堂のあり方等が未定のため「当面保留」となる。

平成24年10月 県教育委員会財務施設課来校、食物科棟

- の配線等を下調べ。
- この際、感喜堂の保存に関する同窓会としての意向を尋ねられる。
- 平成25年2月 佐合広利瑞陵会副会長、瀬口哲夫名市大名誉教授、感喜堂視察
- 3月 管理棟（本館）の耐震工事終了（未改修は食物科棟と感喜堂となる）
- 平成25年4月 同窓会役員会で協議し会長名での陳情書提出を決定
- 5月 瑞陵会の陳情書提出
- 6月 大村知事、河村市長来校、視察（新聞記事参照）
- 今後は強度を計測したうえで、秋口に対応策が示される予定である。

なお、小田博一元校長（瑞20）によれば、昭和45年の校舎改築に先立って、同窓会から木造校舎と感喜堂を含めて改築を要望した経緯があったとのことである。



中日新聞 平成25年6月11日(火) 朝刊（掲載許可済）

ああ、青春のふるさと「感喜堂」賛歌

旧職員 堀尾幸平

初夏の午後、瑞陵高校同窓会の先生や新聞社からの電話取材を受けた。私たちの青春、ふるさとである感喜堂が同窓会等の陳情もあって、愛知県、名古屋市等で保存を検討して頂けるということである。

うれしい！ありがたい！感喜堂さん、本当によかったね。私の頭は、青春の熱い思いでいっぱいになり、胸が高鳴った。

ああ、なつかしい感喜堂！それは私たち瑞陵高校の生徒、職員みんなの青春のロマンであった。私の視界は、たちまちタイムスリップして、瑞陵高校の青春まったただ中にいた。40年前、正確には昭和50年度から平成2年度までの16年間を瑞陵高校で勤務させて頂いた。本当に楽しかった。

前半は私の口ぐせの「エリートof the タマゴたち」を担当し

た。この呼び方は当時ちょっとした流行語になった。後半は「働きながら学ぶ」夜間定時制課程に配置替えになった。「感喜堂」が夜間定時制の食堂として改装されたのは昭和54年であった。もともとは大正13年建築の歴史的建造物で、当初から瑞陵で、講堂や図書室として使用され親しまれてきたものと聞く。この建物には私たちの感喜堂への思いと同様に多くの卒業生、同窓生たちの青春の思い出がしみこんでいるにちがいない。

平成17年6月「食育基本法」が施行されて、学校教育のみならず一般社会においても食育に強い関心が持たれるようになったのは誠にうれしい限りである。この食育は従来、働きながら学ぶ夜間高校生にとってきわめて重要な課題であった。まず時間的にも職場の終業後から授業前の間にとらなければならない。その献立、栄養価も大きな問題であるし、給食をとる場所も授業の教室であるから、配膳、片づけ、清掃等は簡単ではなかった。

それが、以前から講堂、図書室として使われてきた施設

が広い食堂として誕生し、「家族そろって楽しい夕食」のように「全校そろって楽しくなごやかな給食」は画期的で素晴らしい、ありがたく全く夢のようであった。

感喜堂は、感謝と喜びという意味で給食部長の私が命名させてもらった。そして生徒、教職員が一丸となって給食研究会を組織して、熱心に研究推進を实践した。そこから単行本『全校ぐるみの給食活動』を編集、出版した。市内の書店にも並べてもらい品切れと増刷で、ちょっとしたベストセラーにまでなった。

また愛知県教育委員会の研究委嘱校に指定されたり、学校給食献立コンクールで入賞をしたりして、みんなで熱く燃えたことはなつかしい。更に私は、東京の全国給食大会で研究発表を二回させて頂き、感喜堂も紹介でき全国的に

も注目された。全国からの参観者も続々と来られて教職員はその対応に追われた。

とにかく感喜堂を中心に、みんなが燃えに燃えたことは確かであった。あの頃の幸せな私たちの思いと実践は現在の瑞陵高校で伝統として継続、実践されていると聞いて、やはり感謝、感激である。

今、あの私たちの青春のふるさとであった感喜堂が、愛知県や名古屋市等によって、歴史的、伝統的建造物として保存を検討して頂けることを思うと、熱くみんなで燃えたあの頃にかえて、私の胸はときめいて止まらない。

ばんざい感喜堂。ありがとう感喜堂！よかった。青春は、瑞陵は、本当に素晴らしいですね。感謝と喜びをこめて、心から合掌。

感喜堂 平成25年度前期定時制生徒会長 野中あおい

初めて感喜堂を見た時の衝撃を私はよく覚えています。ずっしりした佇まいに言葉を失いました。天井は高く広々としていて、開放感があり、窓から射し込む西陽が眩しかったです。

この感喜堂には、たくさんの思い出があります。新入生歓迎会や卒業生を送る会などの行事、さらに日々の給食が

加わり、数えきれないほどです。卒業生や今現在、感喜堂を使用している瑞定生にとっては、膨大な数の思い出があるはずだ。

老朽化に伴い、雨漏りや耐震性の問題の改善は必要だと思えます。しかし、歴史ある建物を学校生活の一部として使用できるということは貴重なことであり、滅多にあることではありません。それをこれからの後輩たちにも体感して欲しいと思います。従って、私は感喜堂の存続を希望します。

瑞陵会親睦ゴルフコンペの御報告 (5)

瑞陵会親睦委員会ゴルフ幹事 木村 鍾 治 (瑞18回)

時下 皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

瑞陵会ゴルフ幹事の木村です。昨年秋から今年春までに行われた親睦会ゴルフコンペの結果等についてご報告申し上げます。

平成24年10月24日、第18回コンペを犬山C・Cにて、また本年5月29日、東名古屋C・Cにて第19回コンペを実施致しました。参加者は18回コンペが20名(男性16、女性4)、19回コンペが21名(男性16、女性5)という状況でした。また、参加されている卒業期は5回生から20回生となっています。

私がゴルフ幹事をさせて頂いてから、既に今年で6年目となり11回のコンペを計画実施してまいりました。この報告書も今年で5回目となります。現在会員数は退会希望者等もあり50名弱となっています。しかしながら、一昨年の16回コンペから、20名前後とコンペ参加者の数が増えて来ている事は幹事として大変嬉しく思っている次第です。これも偏にご先輩の方々始め、同期、後輩諸兄のご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。特に19回コンペでは遠路埼玉県から関東瑞陵会の稲葉様(19回生)に2回目の参加をして頂きましたこと、本紙をお借りし厚く御礼申し上げます。

また、この度のコンペから瑞陵会本部の浜田副会長、佐合副会長のご努力により、優勝トロフィーを寄贈して頂きました。図らずもそのトロフィーは幹事の手に移りましたが、20回コンペ以降この様な事がないよう注意して行きたいと思っています。なお、優勝トロフィーは持ち回りですので、トロフィー返還



優勝トロフィー

時はそれに代わる記念としてレプリカを贈りたいと考えています。是非次回も御同期等をお誘いの上、奮って参加して頂ければと思っております。

老婆心ではありますが、このようにゴルフコンペという親睦会の場所を先輩・後輩或いは同期生とのコミュニケーションの場として活用して頂ければと願っております。

これからも多くの方の参加をお待ちしております!!! 追伸：本会報をご覧になり、親睦会ゴルフコンペへの参加をご希望される方は、気楽に幹事までご連絡下さい。

試合は新ペリア(ダブルペリア)方式で実施、結果は次の通りです(敬称略)

18回コンペ (H24・10・24)			19回コンペ (H25・5・29)		
	氏名	卒業期		氏名	卒業期
優 勝	近藤 隆	13回	優 勝	木村 鍾治	18回
準優勝	村瀬 範晃	5回	準優勝	石山 恒明	20回
3 位	石山 恒明	20回	3 位	浜田 堯	15回
5 位	伊藤 康郎	20回	5 位	伊藤 康郎	20回
7 位	木村 鍾治	18回	7 位	小川 利夫	18回
10 位	滝山 昭	16回	10 位	竹内 尚平	18回

※第20回コンペは10月下旬岐阜県の「花の木ゴルフクラブ」を計画しています。

幹事連絡先：携帯 090-4850-1392 FAX052-205-6321
e-mail kimurashouji0601@yahoo.co.jp



第19回瑞陵会親睦ゴルフコンペ参加者(写真)

戦後学制改革とラグビー部

浜 島 昭 二 (瑞19回)

昭和39年、瑞陵高校に入学し、中学時代は野球部だったので、運動部に入ることを決めていた私はいろいろなクラブを順番に覗いていた。3つめか4つめだったラグ

ビー部の部室に行ったら、その途端、入部を決められてしまった。うまく断れなかった、というところだが、多くのラグビー部員が同じような経験を語っているから、ある種典型的な始め方らしい。

5月だったかと思うが、ルールもよく知らない我々一年生はいきなり試合に出された。部員が少なかったからだが、何もわからずうろろしていたことは今でも覚えている。

それが旭丘との試合だった。

私には元々、旭丘に対するライバル心というようなものはなかったのだが、入学式でいきなり「旭に負けるな」みたいなことを言われ、ラグビーでも勝てなかったので、次第に対抗心を持つようになっていった。

ところが、ラグビー部の先輩たちはどうやら旭丘のラグビー部OBたちを個人的によく知っていて、親しく付き合っているらしいということがわかってきた。私の時代にはもうそんなことはなかったので、不思議でもあった。

それからずいぶん経ち、昭和64年（平成元年）に『瑞陵高校ラグビー部40周年記念誌』が、その10年後に『五十周年記念誌』が発行され、先輩方の寄稿文を読んでようやく事情が飲み込めた。

つまり、瑞陵を初め愛知県内のいくつかの高校ラグビー部はいわば兄弟のようなもので、そこには戦後占領政策と教育制度改革が関わっていたのである。

というわけで、先輩方の記録を基にして新制瑞陵高校設置とラグビー部創立の経緯および他校ラグビー部との関係をまとめておくことにした次第である。

なお、情報不足あるいは事実誤認による不正確な既述があることと思われるので、お気づきのことがあれば是非ご教示いただきたく、予めお願いしておきたい。

昭和20年8月14日、日本は御前会議においてポツダム宣言の受諾を決定し、翌15日正午、天皇による終戦の詔書朗読、いわゆる「玉音放送」によって終戦すなわち敗戦が全国民に伝えられて第2次世界大戦が終わった。この時名古屋の最高気温36.5度、湿度76%だったと『五中－瑞陵60周年記念誌』にある。

マッカーサー指揮下の連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の政策は、日本を「民主的な、平和的な、文化国家として建てなほすこと」（文部省、『新教育指針』、昭和21年5月）であり、軍国主義的および極端な国家主義的な思想および教育の払しょくを目指して教育改革を進めた。

それを担ったのが「民間情報教育局（Civil Information and Education Sector, CIE）」で、教育全般（初・中・高等教育、社会教育）・教育関係者の適格審査・各種メディア（新聞、雑誌、ラジオ）・芸術（映画、演劇）・宗教（神道、仏教、キリスト教、新興宗教）・世論調査・文化財保護等、教育及び文化に関する極めて広範囲にわたる諸改革を指導し、監督した。

CIEは教育面での日本民主化に向けた提言をとりまとめるべく21年1月、本国に教育使節団の派遣を要請した。この使節団は2回派遣されているが、著名な教育学者ジョージ・D・ストダード博士を団長とする米国教育界代表27名より成る第一次使節団が日本に到着したのは3月で、1ヶ月滞在して教育改革の基本方策をまとめ報告書として総司令部に提出した。これによって戦後日本の教育改革が進められることになった。吉田首相代理の幣原国務大臣も、今時の敗戦を招いた原因は教育の誤りにあったと指摘し、教育問題は国政の優先課題であると力説した。

CIEは文部省と協議して使節団報告書の主旨を実現するべく方策を立て、日本側カウンターパートとして昭和21年、内閣に安倍能成（元一高校長、後に学習院院長）を委員長、南原繁・東京帝大総長を副委員長とする教育刷新委員会が設置された。

占領政策の実施組織として米太平洋陸軍第八軍司令部および第八軍所属の第一、第九軍団司令部に軍政部局（Military Government Section）が設置され、その下に各都道府県の軍政部（Military Government Team）が置かれた。同時に、これら軍政部を地区単位で統括する8つの地区軍政部（Military Government Regional H.Q.）が設けられ、愛知県は第一軍団軍政部（京都）に所属し、名古屋に置かれた東海北陸地区軍政部が管轄するところとなった。

地方軍政部の任務は、GHQの指令およびそれに基づく日

本政府の法令が実施されているかを査察し、必要に応じて適宜日本側関係者に指導・助言（「サジェスション」）をおこなうことであった。その中で教育制度改革を担当したのが教育官で、東海北陸地区軍政部門間教育課長ジョンソンと愛知軍政部門間教育課長バーディックは妥協を許さない姿勢で恐れられた。とくに大阪軍政部から転勤してきたジョンソンは、教育官の職務である「サジェスション」とは名ばかりの強引な姿勢で全国に名が知れ渡っていた。この後、東海北陸地区における教育改革は「ジョンソン旋風」と呼ばれることになる。『愛知県立瑞陵高校ラグビー部五十周年記念誌』に旭丘OBの伊藤次郎左衛門氏が「所謂『ジョンソン旋風』により旭丘ラグビー部は離散させられてしま」った、と書いておられるのはこのことである。

戦後の教育改革のうち最も多くの人々の注目を集め、その実施と成果に期待をかけたのは六・三・三・四制による学校体系の改革であった。この六・三制は米国教育使節団報告書の中にも望ましい学校体系として記されていたが、前述の教育刷新委員会もこの問題を取りあげ、従前の学校体系がもっていた改善の諸点を検討し、教育民主化の精神を学校制度に実現することを目指して六・三制による改革を決定した。文部省はこの方針に従って学制改革に着手した。この改革は小学校から大学にまで及ぶ全学校体系の改革であって、明治5年の学制頒布以来の大きな改革となった。

昭和23年2月、政府は新学制の実施にともない新制高等学校を昭和23年度から実施することを閣議決定し、同年4月、旧制五中・熱田中学が愛知県立熱田高等学校となったが、僅か6ヶ月後の10月、実務女学校・女子商工・名南高校、貿易商業、愛知商業との統合により瑞陵高校となったことは同窓各位には周知のことである。因みに、愛知県の公立高等学校再編では前身校がそのまま引き継がれたのが24、2校統合も24、3校統合によりできたのが3で、4校が統合されたのは瑞陵1校のみである。（片桐芳雄・崔成学『新制高校の再編成－愛知県を中心に－』、愛知教育大学教科教育センター研究報告、第21号、1997年）

新学制の下での高等学校設置については学区制、男女共学制、総合制という原則を立てて統廃合を行なった。この三つの原則によってどのように旧中等学校を移行させるかはむずかしい問題であった。高等学校は中学校卒業生であって入学を希望するものはなるべく多く入学させる方針であったので、公立高等学校を学区制によって再編し、普通課程、職業課程を設ける制度とし、これらの課程を総合して経営する学校を奨励した。また高等学校に定時制、通信制などを併置することも決定された。

このいわゆる高校三原則の中で最も大きな議論を呼んだのが小学区制である。愛知・岐阜・三重の各県当局は、学区制の適用に例外を設けて段階的に進めようとし、軍政部もこれを容認していたが、「旋風」と呼ばれた上述の教育課長ジョンソンは即時完全実施を勧告した。これを受けた愛知県が設置した、豊田利三郎ほか6名の委員による「新学制実施特別委員会」は23年8月、学区制の全面採用などを内容とする答申を知事に提出した。この一ヶ月後に私は生まれた。

第一次の学校再編成は六・三・三制の完全実施を目標とし、高校三原則の実施にはさまざまな困難があったので、学区制については、昭和24年の入学者から逐次適用実施する方針が採られた。そしてその24年3月末に第二次学校再編により一学区一校の小学区制が厳正に実施されたのである。

しかし、学区の線引きが当初から地域の実情を十分に反映していなかったこともあって、希望して入学した学校から転校させられる生徒が続出して反発を招いた。また、旧制の伝統校へ進学させるため、中学卒業前にその学校が所在する学区の知人宅等に寄留させ、越境入学させるケース

が後を絶たなかった。中には、手続きだけをして転居せず、電車で通学する生徒もあったという。(宮田力松『高等学校五十年史』、教専社、平成24年)

瑞陵の学区は熱田区全域と瑞穂区山崎川以西に定められ、旧愛商校舎に五中／熱田、愛商、貿易商、実務／名南の生徒が集まってきただけでなく、旭丘、中川、一宮、津島などから転校してきた。その中に旭丘から譲り受けたボール3個を携えて「泣く泣く」やってきた2年生の鈴木元雄氏と1学年下の佐藤稔夫氏がいた。鈴木氏はその後、東大ラグビー部主将、三菱自動車常務、自動車技術会会長、全三菱ラグビー倶楽部部長および瑞陵ラグビー部OB会長を務められた。

パッチワーク状態でスタートした瑞陵高校であったが、最大グループは当然、旧熱田中出身者で、生徒会やクラス委員、クラブのキャプテンなどは主に彼らであったと各周年記念誌にある。しかしラグビー部は一中出身のこの二人と津島から転校してきた伊藤滋三氏が中心になってメンバーを集め、顧問は同じく旭丘から転任された吉村三笠先生であった。

3人は精力的に部員を集め、五中、愛商出身の「暴れん

坊」の他、前OB会長で今年3月に亡くなられた長谷川守男氏など新入生も入部し、5月にはすでに向陽高校と新チーム最初の練習試合を行なっている。そして昭和30年(29年度)には川口勝主将の下、史上最初で最後の全国大会出場を果たした。

これが旭丘と瑞陵のラグビー部が兄弟である由縁であるが、分散した一中ラグビー部員は明和、西陵、菊里など転校先でそれぞれラグビー部を創部した。すべて兄弟チームと言えるが、中でも明和には後に県の高体連ラグビー部を創設された星野栄治先生がおられ、その後、瑞陵さらには旭丘で指導されたこともあって3校の兄弟意識は特に強い。

明和には当時、後に愛知教育大学教授、愛知県ラグビーフットボール協会会長を務められた寺澤健次先生もおられ、創部間もない瑞陵を指導されたと『五十周年記念誌』に書かれている。この寺澤先生も昨年、亡くなられたが、こうした強い絆があって、旭、明和、瑞陵の三校は、昭和56年から毎年3月、OBチームによる「星野杯争奪三校対抗戦」を行ない現在にいたっている。交代で幹事校を務め、すでに30年以上続いており、今年は3月31日に瑞穂ラグビー場で開催された。

平成25年度 役員一覧

1. 名誉会長 吉沢雅之(校長)
2. 名誉顧問 鳥居 大(五37) (百周年事業委員会委員長)
高木 修(瑞5) (前会長・弁護士)
3. 顧 問 判治誠吾(瑞12) (大同メタル工業(株)会長)
斉藤二郎(瑞13) (愛知県スキー連盟副会長、前副会長)
伊神勝彦(瑞15) (中京高校校長、元瑞陵高校校長)
加藤正躬(瑞17) (元愛知県小中校長会副会長)
久田宗弘(瑞17) (DCMホールディングス社長)
松下 雋(瑞17) (日本ガイシ(株)顧問)
揖斐敏夫(瑞19) (石油資源開発(株)専務取締役)
錫村明生(瑞20) (名古屋大学医学部教授)
岡本信明(瑞22) (東京海洋大学学長)
4. 会 長 中村利雄(瑞17) (日本商工会議所・東京商工会議所専務理事)
5. 副 会 長 濱田 堯(瑞15) (賛助会費募集委員会委員長)
荒木郷兵(瑞16) (賛助会費募集担当)
江副嘉彦(瑞16) (総会実行委員会委員長)
青木偉晃(瑞17) (会長補佐)
天野清美(瑞17) (会長補佐)
一ノ瀬喜之(瑞18) (総会・交流会担当)
浜島昭二(瑞19) (会報委員会委員長)
佐合広利(瑞20) (総会・交流会担当 賛助会費募集担当)
6. 常任幹事 三浦チエ子(瑞5)
武藤正男(瑞定6)
坂東信吾(瑞13)
稲田萬吉(瑞14)
水野茂明(瑞14)
樋口順一(瑞15)
滝山 昭(瑞16)
石橋 畝(瑞17)
片山真紀(瑞17)
水野達郎(瑞17)
岩野哲郎(瑞18)
木村鍾治(瑞18) (親睦委員会委員長)

- 小野俊夫(瑞19)
- 木下道子(瑞19)
- 栗田真砂(瑞20)
- 寺田志郎(瑞20)
- 濱島誠一郎(瑞20)
- 森 重統(瑞20) (事務局長、会報担当)
- 澤田耕一(瑞21)
- 秋田真希子(瑞21)
- 木村恵子(瑞21)
- 柴田達男(瑞21)
- 神谷彰彦(瑞22) (事務局、総会・交流会担当)
- 鬼頭 誠(瑞22)
- 鬼頭恵子(瑞22)
- 近藤哲典(瑞22)
- 成田龍一(瑞23)
- 松尾知之(瑞23)
- 下岡和美(瑞23)
- 上杉修平(瑞24)
- 渡邊正詞(瑞24)
- 鈴木克彦(瑞24)
- 朝倉隆司(瑞25)
- 天鷲操子(瑞25)
- 伊藤賢治(瑞25)
- 大路 弘(瑞25)
- 中根卓郎(瑞25)
- 大島正範(瑞26)
- 野田高広(瑞26)
- 西郷 孝(瑞27)
- 鈴木英利(瑞27)
- 早瀬弘親(瑞27)
- 若松文彦(瑞27)
- 田中健二(瑞28)
- 富屋誠一郎(瑞28)
- 青山和暁(瑞29)
- 玉山哲郎(瑞30)
- 佐藤成俊(瑞38)
- 7. 総 務 牛田 守(全日教頭)
- 篠原 昇(全日教頭)
- 8. 会計管理 中嶋 覚(事務長)
- 9. 監 査 大谷宜生(定時教頭)
- 河津弓彦(瑞4)

瑞 陵 会 報

平成24年度 瑞陵会会計決算書

収入済額 4,737,453円 支出済額 2,788,458円
 残額 1,948,995円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	1,480,810	1,480,810	0	前年度から繰越
繰入金	1,000,000	844,000	△156,000	賛助会費会計から繰入
入会金	1,170,000	1,167,000	△3,000	3,000円×389名
参加費	1,500,000	925,000	△575,000	総会参加費
広告収入	300,000	297,000	△3,000	名刺広告収入等
雑収入	190	23,643	23,453	記念誌販売、預金利息等
合計	5,451,000	4,737,453	△713,547	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
事務費	1,250,000	363,313	886,687	
報償費	550,000	30,000	520,000	表彰費等
報酬費	300,000	16,000	284,000	非常勤職員の報酬
通信費	150,000	130,705	19,295	郵便切手等
需用費	250,000	186,608	63,392	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	22,498	227,502	
役員会	150,000	9,685	140,315	会議経費等
委員会	50,000	12,813	37,187	会議経費等
需用費	50,000	0	50,000	消耗品等
事業費	3,814,000	2,402,647	1,411,353	
交流会会場費	2,064,000	1,671,328	392,672	懇親費等
印刷費	850,000	675,719	174,281	会報等印刷・送付費
学校支援事業	900,000	55,600	844,400	卒業記念葉書等
予備費	137,000	0	137,000	
合計	5,451,000	2,788,458	2,662,542	

平成24年度 瑞陵会積立金会計決算書

収入済額 5,529,624円 支出済額 0円
 残額 5,529,624円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	3,897,628	3,897,628	0	前年度から繰越
繰入金	0	1,631,013	1,631,013	百周年事業、会計残金繰入
雑収入	372	983	611	預金利息等
合計	3,898,000	5,529,624	1,631,624	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
繰出金	0	0	0	

平成24年度 瑞陵会賛助会費会計決算書

収入済額 4,219,690円 支出済額 844,000円
 残額 3,375,690円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	0	0	0	
賛助会費	5,000,000	4,219,690	△780,310	591名
雑収入	1,000	0	△1,000	
合計	5,001,000	4,219,690	△781,310	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
繰出金	1,000,000	844,000	156,000	賛助会費の1/5を本会計繰入

*平成24年度 瑞陵会ポプラシート事業
 御園座観劇(10月・3月)
 支出額 501,050円(準備金残額 1,166,407円)

平成25年度 瑞陵会会計予算書(案)

収入予算額 6,863,000円 支出予算額 6,863,000円
 差引額 0円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	1,948,995	1,480,810	468,185	前年度から繰越
繰入金	1,844,000	1,000,000	844,000	賛助会費会計から繰入
入会金	1,170,000	1,170,000	0	3,000円×390名
参加費	1,500,000	1,500,000	0	総会参加者(300名)
広告収入	400,000	300,000	100,000	名刺広告収入等
雑収入	5	190	△185	預金利息等
合計	6,863,000	5,451,000	1,412,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
事務費	1,653,200	1,250,000	403,200	
報償費	550,000	550,000	0	表彰費等
報酬費	553,200	300,000	253,200	非常勤職員の報酬
通信費	300,000	150,000	150,000	郵便切手等
需用費	250,000	250,000	0	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	250,000	0	
役員会	150,000	150,000	0	会議経費等
委員会	50,000	50,000	0	会議経費等
需用費	50,000	50,000	0	消耗品等
事業費	4,586,000	3,814,000	772,000	
交流会費	2,064,000	2,064,000	0	総会・懇親費等
会報費	1,000,000	850,000	150,000	会報等印刷・送付費
学校支援事業	1,322,000	900,000	422,000	生徒向け学習環境整備
支部支援事業	200,000	0	200,000	瑞陵会支部支援
予備費	373,800	137,000	236,800	
合計	6,863,000	5,451,000	1,412,000	

平成25年度 瑞陵会積立金会計予算書(案)

収入予算額 5,530,000円 支出予算額 0円
 差引額 5,530,000円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	5,529,624	3,897,628	1,631,996	前年度から繰越
雑収入	376	372	4	預金利息等
合計	5,530,000	3,898,000	1,632,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰出金	0	0	0	

平成25年度 瑞陵会賛助会費会計予算書(案)

収入予算額 8,376,690円 支出予算額 1,844,000円
 差引額 6,532,690円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	3,375,690	0	3,375,690	前年度から繰越
賛助会費	5,000,000	5,000,000	0	目標1000名
雑収入	1,000	1,000	0	
合計	8,376,690	5,001,000	3,375,690	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰出金	1,844,000	1,000,000	844,000	

*平成25年度 瑞陵会ポプラシート事業(案)
 御園座観劇(年2回)(準備金残額 1,166,407円)

ポプラシート事業の今後

副会長 濱田 堯

御園座が本年3月末を持って、閉館されたことは皆さまマスコミ等を通じてご存じのことと思います。

では、ポプラシート事業はどうなるのか、問い合わせもありませんので、今後についてお知らせ致します。

御名残御園座と銘打たれた「三月大歌舞伎」公演の初日(本年3月2日)に御園座長谷川社長と話し合うことが出来ました。社長は御園座の誇りと面目に掛けても歌舞伎顔見世公演の火は絶やさないと話があり、秋には金山の「日本特殊陶業市民会館」を会場として顔見世公演を計画しているとのことでした。

本校で事業の面倒をみていただいている梶野先生からも、この事業により在校生の歌舞伎への関心も高まり応募も増している、ここで中断させることは絶対に避けたいとの意向を伺ってましたので、秋以降の同市民会館での歌舞伎公演についても今までと同様に事業を継続していくことにしました。

これまでの応募状況ですが、第1回から数回は50名中35名程度で他校の高校生や留学生が占めていましたが、ここ数年は圧倒的に本校生徒の参加が多くなりました。

創立百周年記念事業として、平成19年4月の御園座での歌舞伎昼公演から毎年100席を春秋各50席に分け向こう10年間県内高校生に無償提供するとして始められたポプラシート事業も折り返しを過ぎ、関係者のご努力により在校生にすっかり根付いた現状を喜び、残りの期間変則的な事業展開を見守りつつ御園座の一日も早い再建を願ってやみません。

ポプラシート過去の事業の演目

過去の事業の演目と主な役者

- ◎平成19年4月14日(土)「陽春花形歌舞伎」
演目 ①通し狂言 盟三五大切 ②芋掘長者
役者 坂東三津五郎・中村橋之助・尾上菊之助
- ◎平成19年10月8日(月)「第四十三回 吉例顔見世」
演目 ①毛抜 ②色彩間苺豆 かさね ③権三と助十
役者 尾上菊五郎・市川團十郎・尾上松緑・尾上菊之助・市川海老蔵
- ◎平成20年4月19日(月)「陽春大歌舞伎」
演目 ①ひらかな盛衰記 源太勘富
②鬼平犯科帳 大川の隠居
役者 中村吉右衛門・市川染五郎・市川左團次
- ◎平成20年10月4日(土)「第四十四回吉例顔見世」
演目 ①時平の七笑 ②京鹿子娘道成寺 ③金閣寺
役者 坂田藤十郎・中村富十郎・中村翫雀・坂東三津五郎・片岡秀太郎
- ◎平成21年4月18日(土)「陽春花形歌舞伎」
演目 ①通し狂言 雷神不動北山櫻
②市川海老蔵、五役相勤め申し候
役者 市川海老蔵・中村芝雀・大谷友右衛門
- ◎平成21年10月3日(土)「第四十五回吉例顔見世」
演目 通し狂言 仮名手本忠臣蔵
①大 序 鶴ヶ丘社頭兜改めの場
②三段目 足利館門前進物の場・松の間刃傷の場
③四段目 扇ヶ谷塩判官切腹の場・表門城明渡しの場
④浄瑠璃 道行旅路の花聲
役者 市川團十郎・片岡仁左衛門・片岡我當・市川左團次・中村福助
- ◎平成22年5月22日(土)「五月花形歌舞伎」
演目 男の花道 ②太刀盗人
役者 中村翫雀・市川亀次郎・片岡愛之助
- ◎平成22年10月2日(土)「第四十六回吉例顔見世」

演目 名古屋開府四百年記念
①通し狂言 旭輝黄金鯉 ②汐汲
役者 坂田藤十郎・尾上菊五郎・中村翫雀・尾上松緑・尾上菊之助

- ◎平成23年2月5日(土)「二月大歌舞伎」
演目 ①芦屋道満大内鑑 葛の葉 ②勸進帳 ③源氏店
役者 市川團十郎・中村梅玉・市川左團次
- ◎平成23年10月1日(土)「第四十七回吉例顔見世」
演目 ①南総里見八犬伝 ②一条大蔵譚
③三代目中村又五郎・四代目中村歌昇襲名披露・口上
④寿曾我対面
役者 市川團十郎・中村吉右衛門・中村梅玉・市川左團次・中村東蔵
- ◎平成24年6月9日(土)「六月大歌舞伎」
演目 ①夏祭浪速鑑 ②素襖落
役者 市川團十郎・市川左團次・市川海老蔵
- ◎平成25年3月2日(土)「三月大歌舞伎」
御名残御園座 二代目市川猿翁 四代目市川猿之助
九代目市川中車 襲名披露
演目 ①小栗栖の長兵衛 ②黒塚 ③桜門五三桐
役者 坂田藤十郎・中村梅玉・片岡秀太郎

中神靖瑞陵会元会長を偲んで

西 郷 孝(瑞陵27回卒)

2012年12月3日に瑞陵3回卒の中神靖氏が永眠されました。故人の意志により葬儀は行われなかったそうです。私は1987年4月から2006年3月まで瑞陵高校に教諭として在職しました。瑞陵会庶務であった水野守廣教諭が、「90周年」を翌年にひかえた1996年の年末に急逝された後を受けて、「瑞陵会」で中神氏と関わることになりました。2005年に中神氏が廣瀬清市瑞陵高校奨学事業委員会の委員長になられてからは、村松憲一氏とともに特に緊密にお付き合いをさせていただきました。

中神氏は、1931年9月15日に名古屋市に生まれ、熱田中学校(五中)に入学されました。その後、戦後の学校統合により瑞陵高校を卒業、南山大学経済学部に進学されました。大学ではサッカー部に所属して活躍され、在学中のアルバイト先の三重ラジオの役員に口説かれアナウンサーに。1959年には三重ラジオと岐阜ラジオの合併にともない、東海ラジオに転籍(スポーツアナウンサー)。その後、長島観光開発株式会社の設立に参加、一時期は取締役をつとめられました。1969年に中京テレビ設立により同社にアナウンサーとして入社、役員を経て1989年に中京テレビスポーツ社長に就任。退任後は青山高原カントリークラブの社長なども歴任されました。

1948年に旧制の熱田中学(五中)など4校が統合されて新制の瑞陵高校が創設されましたが、旧制の五中の同窓会である「五中会」と瑞陵高校の同窓会は別組織でした。五中創立から60周年を迎えるにあたって、旧制の3校と新制瑞陵高校の卒業生の同窓会を一本化しようとする努力がなされ、1964年に現在の「瑞陵会」が発足しました。中神氏は五中入学・瑞陵卒業で、瑞陵高校在学中に生徒会役員をしていたことや瑞陵高校同窓会会長であったことから、「瑞陵会」の成立には多方面にわたって尽力されました。

中神氏は「瑞陵会」創立時より副会長をされていましたが、1997年の「90周年記念事業」では、体調を崩されていた広沢金久会長の代理をされ、翌年の1998年から2001年まで瑞陵会会長をつとめられました。在任中の



愛・地球博の外アニアデーのイベントで
左から中神靖氏、村瀬豊氏(第1回海外派遣団長)、
クジス閣下(在日外アニア全権大使)(2005.7)

2000年には、今井美希選手のシドニーオリンピック壮行会で激励され、瑞陵会が瑞陵高校生徒全員を招待した「センボ・スギハハラ」観劇会が実施されました。



第2回リトアニア・ポーランド派遣出発式で挨拶する中神靖氏。左は廣瀬清市の遺影(2007.7)

会長退任後の中神氏の最大の功績は、廣瀬清市瑞陵高校奨学事業を委員長として事業の実施に尽力されたことだと思います。同事業は瑞陵高校の校医であった廣瀬清市先生(五中24回)の出資によって、瑞陵生を対象に海外研修旅行や研究助成などを行うもので、世界的にみても希有なものでありました。13回行われた海外研修旅行で派遣された瑞陵生はのべ200名にも及び、訪問国は15ヶ国にもなりました。廣瀬先生の出資申し出は「90周年」頃からあって、中神氏が受け入れ実現に向けて多方面に働きかけたことから、2005年の3月に当時の伊神勝彦校長が事業委員会を組織された際には、中神氏に委員長をお願いすることになりました。そして、第1回事業としてオーストラリア研修旅行の生徒募集が開始されました。18名の瑞陵生が選考されて7月に実施されることになるのですが、この企画の実現には、新たに赴任した校長との意見調整に中神氏

のひとかたならぬ努力がありました。2005年には愛・地球博が開催されましたが、瑞陵会としてリトアニア館スタッフとも交流し、リトアニアデーや杉原千畝イベントに積極的に参加し、夏の瑞陵会総会ではリトアニア館館長の講演もおこなわれました。このときの情報をもとにリトアニア・ポーランド生徒派遣が企画され、翌年と翌々年に実施されました。2007年に廣瀬先生が亡くなられた後も事業は継続されましたが、資金の潤渇と学校側の意向により2011年3月に事業は終了することになりました。この間、委員会と学校側との意見調整に中神氏は心血を注がれ、事業の継続に多大な貢献をされました。

委員会を閉じる最後の会議には中神委員長は体調を崩されて欠席されたので、伊神先生と私で慰労会を企画して中神氏と度々連絡をとっていましたが、日程調整つかないままになっていました。本年1月にご家族から寒中見舞の葉書をいただき、昨年末に亡くなられたことを知りました。慰労会が実現できぬままになってしまったことが悔やまれてなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、本稿作成にあたっては、「60周年記念誌」、「80周年記念誌」のほか、中神氏の奥様から高木修瑞陵会前会長に送られた経歴書、瑞陵会事務局からの資料等を参考にさせていただきました。奥様、高木前会長、森重統先生に深く感謝いたします。

瑞陵高校の近況

「一般財団法人瑞陵高校助成基金」について

平成24年11月に「一般財団法人瑞陵高校助成基金」が成立し、活動を始めた。同窓生を含む一般の方々からの寄付金を資金とし、瑞陵生の研修(海外を含む)への費用補助、教育活動に関わる環境整備、教育関係物品の寄贈等を目的とし設立された。昨年3月には以下の要領で最初の海外学習助成事業である「国立スミソニアン博物館・メトロポリタン美術館見学の旅」が実施された。

主宰旅行者	近畿日本ツーリスト
参加生徒	12名 引率教員 1名
旅程	3月20日 中部国際空港発
	21・22日 ワシントン滞在
	(リンカーン記念館、スミソニアン博物館群等)
	23・24日 ニューヨーク滞在
	(ミュージカル、メトロポリタン美術館等)
	25日 ニューヨーク発
	26日 中部国際空港着

参加生徒のアメリカのレポート(抜粋)

105R 河合慶昭

いよいよ出発の日、この日は行くのがとても楽しみで、中部国際空港で説明を受けたりしている間もずっと胸を高鳴らせていました。家族と別れを惜しんで、いよいよ飛行機、と思っていたらさっそく、飛行機の客室乗務員さんに外国人がいました。僕はずっと、あの人が飲み物とか機内食とか聞きに来たら嫌だなあ、と思っていました。そんなこんなで離陸の時間になって、13時間のフライトが始まりました。けれど、機内食を配るときに時に外国人の客室乗務員さんが来ました。正直、うまく伝わるかとかが不安でした。けれど、ちゃんとやりたいことを言って伝わったので、安心しました。案外伝わるんだなと思いました。そのあとの飲み物を配るときにも来ました。聞かれていることもちゃんとわかったし、それに答えることもできたので、自分の英語がちゃんと伝わっているという自信にすごくなりました。

僕が今回の旅行で1番行ききたかったのは、博物館でした。

どんな動物がどこに生息していたか、どういうものがどういう経緯でできあがったのか、そのような興味深いことが、山のようにありました。1つだけの博物館でも、1日では見切れないほどの展示物の数があります。しかもワシントンの博物館は無料で入れて写真撮影も可能なので、僕が近くに住んでいたら絶対に通います。

ワシントンでは自然史博物館と航空宇宙博物館、ニューヨークでは自然史博物館に行きました。2つの自然史博物館では、おもに動物のところを見学しました。とくに、古代生物とかを中心に見て回りました。小さいころから動物が好きだったので、昔に戻ったようにとてもワクワクしました。すべての説明が英語で書いてあるので読めませんが、きっと面白いことばかりが書いてあるに違いありません。英語が読めるようになったら、絶対また行きます。ガイドさんに案内してもらったところは、説明を聞きました。初めて知るようなことばかりで、とても勉強になりました。



航空宇宙博物館では、大体の飛行機を案内してもらったので、とても分かりやすかったです。第二次世界大戦中には、世界中でとても多くの戦闘機などがつくられていたということも知りましたし、宇宙から日本への帰還の仕方も、前からずっと気になっていたのを知ることができたのでよかったです。僕は大学で、航空宇宙科に進もうかと思っていますので、ここで少しだけけど学んだことを生かせたらいいなと思っています。

僕はこの旅行で学んだことを考えてみました。博物館で見たもの、美術館で見た絵、とにかくいろいろなことを学んだと思います。どれもしっかり覚えておくべきことだと思います。でも、学んだ中で1番大切なこと、それは、この企画に参加しようとしたり、展示物を自分の目で見たりといった、自分でやってみようと思う気持ちだと思います。そういう気持ちがあったので、アメリカでとても有意義に過ごすことができました。なんでも挑戦する勇気を持つことが大切、ということ今回学びました。

瑞陵進路セミナー（平成24年度実施例）

- ① 5月8日(火) 世紀の金環日食を楽しみましょう
15:30～ 石井 貴子先生
(京都大学天文台研究員、京都大学大学院卒)
- ② 6月12日(火) 国際協力と地域研究
15:30～ 安藤 和雄先生 瑞陵25回生
(京都大学 東南アジア研究所准教授)
- ③ 7月5日(木) 医療を目指す
15:30～ 吉岡 眞吾先生
(国立病院機構 東尾張病院 司法精神医学部長
名古屋大学医学部医学科卒業)
- ④ 7月6日(金) 法学を学ぶ楽しみ
15:30～ 臼井 幹裕先生 瑞陵33回生
(愛知県弁護士会 弁護士)
- ⑤ 11月13日(火) 神経免疫について
15:30～ 錫村 明生先生 瑞陵20回生
(名古屋大学環境医学研究所 教授)
- ⑥ 2月19日(火) 心理のお仕事-入門編-
15:30～ 成田 有子先生
(本校勤務カウンセラー)

濱島誠一朗奨学事業

この奨学事業は本校20回生濱島誠一朗氏のご好意により、瑞陵生の向学心を育むための体験活動を援助することを目的として、平成22年に設立されました。

昨年度の活動は以下の通りです。

1 バス旅行による研修

京都大学安藤和夫先生によるフィールドワーク体験
不審庵での茶道体験、奈良国立博物館・正倉院展見学
熊野古道を歩く、インスタントラーメン発明記念館見学
等6回実施

2 美術館・博物館での研修(学芸員の説明付き)

日本美術の至宝展見学(名古屋ポストン美術館)
オーシャン 海はモンスターでいっぱい展(名古屋市科学館)
マリー・アントワネット物語展(名古屋市博物館)
大エルミタージュ美術館展(名古屋市美術館)等

3 研修会・講習会への援助

サマーサイエンスキャンプ(科学技術振興機構)
ウインターサイエンスキャンプ(同上)
スーパーサイエンス特別課外活動
参加者7名への交通費・宿泊費等補助

部活動の活躍

平成24年度 全国大会
(全日制)

陸上競技部 全国高校総合体育大会
(男子800m、女子走幅跳び)
棋道部 全国高等学校将棋竜王戦(男子個人)

平成25年度 全国大会 次の部が出場します。

陸上競技部 高校総体(男子800m)
7/31～8/2 大分
棋道部 全国高校文化祭(将棋男子個人)
7/31～8/1 長崎

名古屋市内県立高校体育大会(22校中)

男子総合 第3位 女子総合 第5位

陸上部男子総合優勝 陸上部女子総合2位 剣道部男子団体3位 野球部3位 男子バレーボール部準優勝
卓球部女子団体3位 女子バドミントン部3位 女子バスケット部4位 水泳部男子総合5位、水泳部女子総合4位 柔道部男子2位 ソフトボール部優勝

陸上競技部

県高校総体 男子800m優勝・女子走幅跳び3位・女子400mR5位
東海高校総体 男子800m優勝・女子走幅跳び4位
愛知陸上競技選手権 女子走幅跳び6位・三段跳び5位・砲丸投げ8位
愛知県高等学校新人大会 男子400m6位・男子800m5位・女子400m3位・女子100mH4位・女子1600mR6位・砲丸投げ4位
東海新人陸上競技選手権 男子800m3位・女子400m7位・砲丸投げ8位

県高校総体 陸上部以外に

弓道部 男子バレーボール部 女子バレーボール部
女子バドミントン部 ソフトボール部 ラグビー部
卓球部 柔道部 水泳部が県大会出場

サッカー部 全国高校サッカー選手権で県大会出場

吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクール愛知県大会銀賞

棋道(将棋)部 全国高等学校将棋竜王戦愛知県大会(男子個人)優勝

野球部 夏の甲子園予選3回戦出場

大学入試状況

大学合格者延べ数 過年度卒業生も含む(一部の大学のみ掲載)

	25年度入試	24年度入試	23年度入試		25年度入試	24年度入試	23年度入試		25年度入試	24年度入試	23年度入試
北海道大	4	1	1	大阪大	4	2	1	日本大	11	5	6
東北大	0	1	0	奈良女子大	2	1	1	愛知大	60	45	33
筑波大	1	5	5	神戸大	0	3	2	愛知医科大	4	11	7
千葉大	1	2	3	広島大	3	1	0	愛知学院大	24	17	14
東京大	1	0	0	九州大	0	1	0	愛知淑徳大	69	35	53
東京工業大	0	1	0	首都大学東京	0	2	0	金城学院大	13	22	8
東京外国語大	0	1	1	愛知県立大	8	9	6	椋山女学園大	25	26	18
一橋大	0	1	0	名古屋市立大	15	18	6	中京大	23	69	71
横浜国大	1	2	0	国公立大学計	143	168	113	豊田工業大	6	6	4
富山大	0	3	4					南山大	168	144	108
金沢大	0	4	4	青山学院大	3	5	4	名古屋外大	22	9	16
信州大	7	5	4	慶応義塾大	6	4	1	名城大	95	99	83
静岡大	5	3	3	早稲田大	5	10	9	藤田保健衛生大	5	10	6
愛知教育大	14	9	10	上智大	4	1	2	京都女子大	4	0	4
名古屋大	14	24	16	明治大	20	17	22	立命館大	68	106	51
名古屋工業大	15	13	17	法政大	7	14	11	同志社大	39	37	17
岐阜大	15	10	7	立教大	2	9	4	関西大	18	18	10
三重大	14	14	12	中央大	14	12	5	関西学院大	8	17	4
京都大	2	3	0	東京理科大	18	24	11	私立大学計	920	933	695

国公立医学部(各市大、福井大、琉球大、防衛医科大学校)

編集後記

毎度のことながら、今年もぎりぎり総会に間に合うかというタイミングでお届けします。原因は一に結局誰かにお願いしている余裕もなく、自分で書くことになってしまったラグビー部創立の話です。一番適任で、こちらからもお願いし易い前OB会長の長谷川守男先輩が今年3月初めに亡くなられてしまい、さあどうしようか困っているうちに仕事の忙しさもあって、時間ばかりが経ち…という次第です。今後、部活の歴史を順次書いていただこうと思っていますので、歴史の古いクラブ関係者をご寄稿をお願いします。平成25年盛夏(S.H.)

訂正とお詫び
『瑞陵会報2012』の記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
16ページ、上から2～3行目、(誤)…送付リストから漏れていた約150箇所…(正)…送付リストに記載の無かった約150箇所…

瑞陵会ホームページのご案内

前号から会報は瑞陵会のホームページにも掲載しています。今まで郵送でお届けしていた同窓生で、ホームページがあれば郵送不要と思われる方は、編集委員までお知らせください。
shoji.hamajima@gmail.com

賛助会費募集

瑞陵会はネットワーク作りと財政再建が最大の課題です。卒業生の入会金だけでは事業の経費がまかなえず、財政の健全化は焦眉の急となっております。そこで、財政健全化のために昨年から賛助会費を募ることにしました。5年分の年会費と考え賛助会費にご協力下さい。5年間会報を送らせていただきます。会報は瑞陵会ホームページでもご覧頂けますが、あなたの愛校心が瑞陵会の支えです。振り込み用紙の請求は瑞陵高校内瑞陵会事務局までどうぞ。(用紙がなければ、振込み手数料本会払いでも構いません)

賛助会費 一口 5,000円 (一口以上でお願いします) 郵便振替 (口座番号00880-7-190740) 払込先 瑞陵会
会報発送と名簿整理の都合上 〒・住所、氏名、回生 (卒業年度) をご記入下さい。

賛助会員名簿

Table with 3 columns: Member Name, Address, and Membership Status. Includes names like 校長 沢野之寛, 副校長 吉澤島 巖, and many others.

瑞陵法曹会有志一同

Table listing various law firms and their contact information, including 外堀通り法律事務所, 高木 修, 東海法律事務所, etc.